

序章

29さいでくるまといえをかいます



天界有龙风



Ⅰ. 研究概要

DLA を踏まえた言語能力評価方法の研究として、発達段階に対応した複数の年齢枠およびステージ別言語能力記述文案（CAN-DO リスト）について量的・質的に妥当性を検証しました

<2023 年度>

Ⅰ 年目は、量的研究に取り組みました（表Ⅰ）。その目的は、能力記述文（CAN-DO リスト）の各年齢枠の垂直尺度化（共通尺度化）です。すなわち、記述文の内容が年齢相応か、年齢枠間の難易度の関係性が適切か、ステージ別の記述文の難易度とその順序性に問題がないかという課題を検証し、妥当性のある能力記述文（CAN-DO リスト）の完成です【研究Ⅰ】。また、質的研究では、学校教育現場において、記述文に基づく評価と教育実践を行い、その有益性の検証を目的に取り組みました【研究Ⅱ】。

表Ⅰ 2023 年度研究活動の工程

		【研究Ⅰ】	【研究Ⅱ】
2023 年度 4 月 9 月	4 月 ・推進委員会の設置 ・推進 WG の設置、定例会（週 1 回） ・3 部門の設置 ・WG の設置 6 月 推進委員会（1 回目）	①「聞く・話す」と「読む」の複数の年齢枠の能力記述文案の整理 ②能力記述文の妥当性検証用の DLA 動画の撮影・編集 ③「聞く・話す」と「読む」の能力記述文の妥当性検証のための評価 WS の準備と実施 8 月 9 月	①「書く」の能力記述文案に基づく高校での評価と教育実践
10 月 3 月	3 月 推進委員会（2 回目）	3 月	3 月

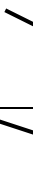
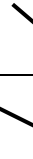
<2024 年度>

「聞く・話す」と「読む」に関しては量的研究手法に基づき、Ⅰ年目で得られた能力記述文（CAN-DO リスト）のチェックデータを多相ラッシュモデルにより統計解析し、年齢枠及びステージ別の記述文を完成させました【研究Ⅰ】。「書く」に関しては、2022 年度の文部科学省からの受託事業で作成した高校段階のものに加え、義務教育段階の児童生徒の作文データ分析を通して能力記述文（CAN-DO リスト）を新たに作成しました【研究Ⅱ】。

さらに、質的研究として、学校教育現場にて、能力記述文（CAN-DO リスト）をまとめた「ことばの力のものさし」＜暫定版＞に基づく評価と教育実践を行い、その妥当性を検証するとともに効果的な教育実践例を収集しました【研究Ⅲ】。

これらの研究を通して評価と指導の一体化を目指した「ことばの力のものさし」を開発し、成果物として 6 点を期日までに納品できるように取り組みました（表 2）。成果物の詳細は、第三章の「2. 成果物の作成について」を参照ください。

表 2 2024 年度研究活動の工程

		【研究 1】	【研究 2】	【研究 3】	成果物の作成
4 月 ― 7 月	4 月 ・推進委員会の設置(継続) ・3 部門の設置 ・学校種別 WG の設置 ・推進 WG の定例会(週 1 回)	4～7 月 ・「聞く・話す」と「読む」の能力記述文(CAN-DO リスト)のチェックデータの統計解析 	4～7 月 ・「書く」のデータ収集 	4～5 月 ・教育実践者を募る、実践アドバイザーの組織化 5～7 月 ・実践希望者と実践アドバイザーとのマッチング 7～9 月 ・評価と指導の一体化を意識した上で実践プランの加筆・修正 ・実践プランに基づく単元(授業)計画と指導案作成	
8 月 ― 12 月	・推進 WG の定例会(週 1 回)	8～12 月 ・【研究 3】の学校教育現場での質的实践研究の結果を踏まえ、「聞く・話す」と「読む」の記述文の加筆・修正を行いながら、「ことばの力のものさし」を完成 	8～12 月 ・【研究 3】の学校教育現場での質的实践研究の結果を踏まえ、「書く」の記述文の加筆・修正を行い、「ことばの力のものさし」を完成 	8～12 月 ・実践プラン・単元(授業)計画・指導案に基づく教育実践に取り組む。 ・実践を通じて、「ことばの力のものさし」<暫定版>の加筆・修正に必要な情報を収集 	9～3 月中旬 ・文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメント DLA ・DLA の実施方法を示した研修用 DLA 動画の制作 ・効果的な授業実践例を収めた教育実践動画の制作
1 月 ― 3 月	・推進 WG の定例会(週 1 回) ・2 月推進委員会(3 回目)		2 月 15 日 推進会議(一般公開) 質的实践研究の実践を同時に公開		10～3 月中旬 ・事業報告書の作成 1～3 月中旬 ・「ことばの力のものさし」実践ガイドとリーフレットの作成 3 月末 ・成果物および事業報告書提出

2. 実施体制について

2-1. 実施体制の特徴

本事業は、東京外国語大学多言語多文化共生センター（以下、「センター」という）の事業として実施しました。実施にあたって、センター内に本事業全体の推進および調査研究の結果・成果物について検討・助言を行う会議の場として、「事業推進委員会」を設置しました。さらに、機関として責任をもって2カ年に渡って本事業を実施するため、学長を中心に、学内の重要事項について連絡・調整を行う総合戦略会議の下に設置する、社会連携マネジメントオフィスにおいて事業の進捗状況を点検しました。大学事務局としては広報・社会連携課が事業に参画し、事務的支援を行うとともに経費執行の適切性等を確保しました。

事業推進委員会の設置にあたっては、各年度でめざした研究目的に従ってメンバーを構成しました。各年度別の推進委員会の特徴は、以下の通りです。

<2023 年度について>

・研究テーマ別に「CAN-DO 作成部門」「CAN-DO 検証部門」「データ解析部門」の3部門を配置し、各部門長は事業推進委員メンバーで構成しました。

・CAN-DO 作成部門に事業推進委員を部門長としたワーキング・グループ（福井県立足羽高校 WG、愛知県立衣台高校 WG、岐阜県立東濃高校 WG、大阪府立大阪わかば高校 WG、大阪府立西成高校 WG）を高校別に設置し、各高校関係者と協働しながら事業を実質化しました。

・「CAN-DO 検証部門」に研究協力者としてワークショップ・コーディネーター（WSC）を配置し、事業推進委員と協働しながら地域別の評価ワークショップ（評価 WS）に取り組みました。

・事業推進委員のうち、本事業を統括する事業推進委員長、各部門の部門長および副部門長、事務局スタッフ2名の計6名程度をコアメンバーとして「事業推進ワーキング・グループ（推進 WG）」を設置し、事業進捗を確認しました。これらを示したものが、図1です。

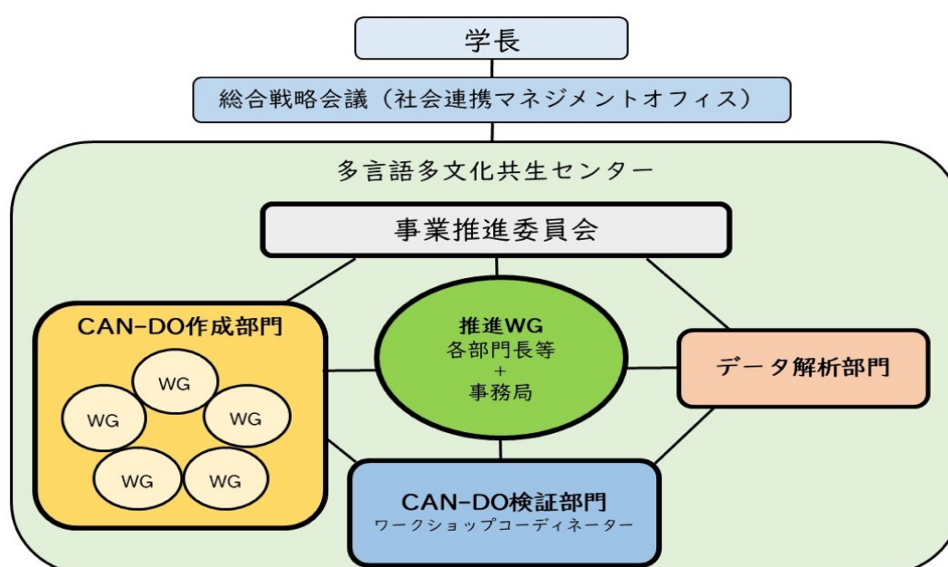


図1 2023 年度実施体制の組織図

<2024 年度について>

・研究テーマ別に「データ解析部門」「CAN-DO 作成部門」「DLA 改訂部門」「教育実践部門」の4部門を配置し、各部門リーダーは事業推進委員のなかで構成しました。

・教育実践部門に、推進委員もしくは研究協力者（実践アドバイザー）をアドバイザーとして配置した学校種別のワーキング・グループとして、義務教育段階（小中学校）を中心としたワーキング・グループ（小中別 WG）および高校別でのワーキング・グループ（福井県立足羽高校 WG、愛知県立衣台高校 WG、岐阜県立東濃高校 WG、大阪府立大阪わかば高校 WG、大阪府立西成高校 WG）を設置し、教育現場での実践を通じて妥当性を質的に検証しました。

・事業推進委員のうち、本事業を統括する事業推進委員長、各部門のリーダーおよびサブリーダー、事務局スタッフ 2 名の計 7 名程度をコアメンバーとして「事業推進ワーキング・グループ（推進 WG）」を設置し、事業進捗を確認しました。これらを示したものが、図 2 です。

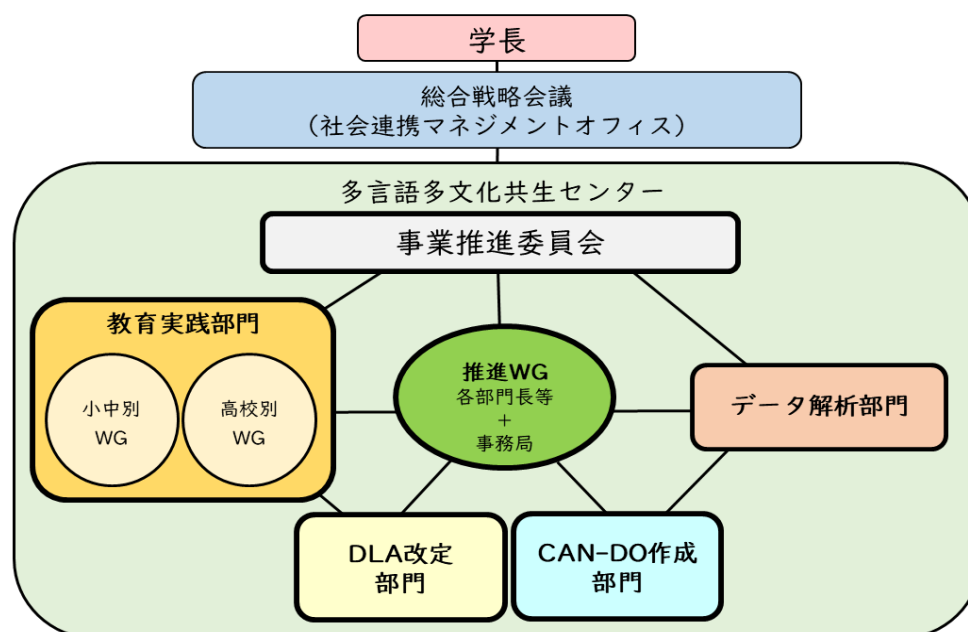


図 2 2024 年度実施体制の組織図

2-2. 推進委員会の設置

各年度別の事業推進委員メンバーは、以下の通りです。なお、各年ともに事務局専従スタッフとして 2 名を採用し、従事いただいた。

<2023 年度（所属は任期時を示す）>

- 1 阿部 新 東京外国語大学 大学院国際日本学研究院 准教授
- 2 小島 祥美 東京外国語大学 世界言語社会教育センター 准教授／多言語多文化共生センター長
*事業推進委員長、CAN-DO 検証部門長
- 3 嶋原 耕一 東京外国語大学 世界言語社会教育センター 講師
- 4 武田 千香 東京外国語大学 学長特命補佐／大学院総合国際学研究院 教授
- 5 伊東 祐郎 東京外国語大学 名誉教授／国際教養大学専門職大学院 特任教授
- 6 小林 幸江 東京外国語大学 名誉教授
- 7 伊澤 明香 関西大学 外国語学部 准教授
- 8 榎井 縁 大阪大学大学院 人間科学研究科 特任教授
- 9 小貫 大輔 東海大学 国際学部 教授
- 10 櫻井 千穂 大阪大学 大学院人文学研究科 准教授

*CAN-DO 作成部門長

11 佐野 愛子 立命館大学 文学部 教授

*CAN-DO 作成副部門長

12 高橋 清樹 認定 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ 事務局長

13 ダグラス 昌子 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 名誉教授

14 中島 和子 トロント大学 名誉教授

15 野口 裕之 名古屋大学 名誉教授

*データ解析部門長

16 真嶋 潤子 大阪大学 名誉教授

17 松田 真紀子 東京都立大学 教授

18 三輪 聖 テュービンゲン大学 人文科学部 アジア地域文化研究所・日本学科 専任講師

19 礪貝 白日 独立行政法人国際協力機構（JICA）国内事業部外国人材受入支援室 副室長

20 澁谷 和朗 独立行政法人国際協力機構（JICA）中国センター 市民参加協力課 課長

21 田中 秀樹 神奈川県教育委員会 教育局指導部高校教育課国際情報教育グループ 指導主事

22 大山 聡 神奈川県教育委員会 子ども教育支援課 小中学校生徒指導グループ 指導主事

23 橋本 正司 大阪府教育委員会 教育長

24 堀 貴雄 岐阜県教育委員会 教育長

25 横溝 亮 横浜市教育委員会 学校教育企画部 小中学校企画課指導主事

26 土屋 隆史 横浜市立横浜吉田中学校 副校長

27 平吹 洋子 豊田市教育委員会 豊田市外国人児童生徒等サポートセンター 教育アドバイザー

28 野入 はる香 豊田市立保見中学校 教諭

29 小山 幾子 豊田市教育委員会 学校教育部学校教育課 課長

30 榊原 英一郎 西尾市教育委員会 学校教育課 指導主事

31 大菅 佐妃子 京都市教育委員会 指導部学校指導課 副主任指導主事

32 小西 三枝 芦屋市教育委員会 教育部学校教育室学校支援課 主査

33 今川 美幸 兵庫県教育委員会 人権教育課 主任指導主事兼指導・事業班長

34 竹本 俊穂 福井県立足羽高等学校 校長

35 杉本 明隆 愛知県立衣台高等学校 校長

36 吉田 益穂 岐阜県立東濃高等学校 校長

37 大西 俊猛 大阪府立大阪わかば高等学校 校長

38 山田 勝治 大阪府立西成高等学校 校長

以上 38 名

事務局スタッフ／小段 真代 増谷 由里佳 東京外国語大学 多言語多文化共生センター

<2024 年度（所属は任期時を示す）>

1 小島 祥美 東京外国語大学 世界言語社会教育センター准教授／多言語多文化共生センター長

*事業推進委員長、教育実践部門長

2 武田 千香 東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 教授

3 伊東 祐郎 国際教養大学専門職大学院 日本語教育実践領域 特命教授

4 小林 幸江 東京外国語大学 名誉教授

- 5 伊澤 明香 関西大学 外国語学部 准教授
- 6 榎井 縁 藍野大学 医療保健学部理学療法学科 教授
- 7 小貫 大輔 東海大学 国際学部国際学科 教授
- 8 櫻井 千穂 大阪大学大学院 人文学研究科日本学専攻 応用日本学コース 准教授
*CAN-DO 作成部門長
- 9 佐野 愛子 立命館大学 文学部 教授
*CAN-DO 作成副部門長
- 10 高橋 清樹 認定 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ 事務局長
- 11 ダグラス 昌子 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 名誉教授
- 12 中島 和子 トロント大学 名誉教授
*DLA 改訂部門長
- 13 野口 裕之 名古屋大学 名誉教授
*データ解析部門長
- 14 真嶋 潤子 国際交流基金関西国際センター 所長
- 15 松田 真希子 東京都立大学 人文社会学部 教授
- 16 三輪 聖 テュービンゲン大学 人文科学部 アジア地域文化研究所・日本学科 専任講師
- 17 礪貝 白日 独立行政法人国際協力機構（JICA）青年海外協力隊事務局 参事役
- 18 澁谷 和朗 独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センター市民参加協力第一課
- 19 田中 秀樹 神奈川県教育委員会 教育局指導部高校教育課国際情報教育グループ 指導主事
- 20 大山 聡 神奈川県教育委員会 教育局支援部子ども教育支援課 指導主事
- 21 水野 達朗 大阪府教育委員会 教育長
- 22 堀 貴雄 岐阜県教育委員会 教育長
- 23 横溝 亮 横浜市教育委員会 学校教育企画部小中学校企画課日本語支援担当 指導主事
- 24 土屋 隆史 横浜市立横浜吉田中学校 副校長
- 25 山岸 道明 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 副校長
- 26 今澤 悌 甲府市立大岡小学校 教諭
- 27 平吹 洋子 豊田市教育委員会 豊田市外国人児童生徒等サポートセンター教育アドバイザー
- 28 野入 はる香 豊田市立保見中学校 教諭
- 29 大野 裕里子 西尾市教育委員会 学校教育課 指導主事
- 30 菊池 寛子 西尾市教育委員会 日本語教育指導アドバイザー
- 31 大菅 佐妃子 京都市教育委員会 指導部学校指導課 副主任指導主事
- 32 小西 三枝 芦屋市教育委員会 学校教育室学校支援課 主査
- 33 今川 美幸 兵庫県教育委員会 人権教育課 副課長
- 34 竹本 俊穂 福井県立足羽高等学校 校長
- 35 杉本 明隆 愛知県立衣台高等学校 校長
- 36 吉田 益穂 岐阜県立東濃高等学校 校長
- 37 大西 俊猛 大阪府立大阪わかば高等学校 校長
- 38 山田 勝治 大阪府立西成高等学校

以上 38 名

事務局スタッフ／小段 真代 増谷 由里佳 東京外国語大学 多言語多文化共生センター

